

# UICCについて



UICCは、がんコミュニティが連携して、世界のがん負担を軽減し、公平性拡大を促し、世界の医療の開発アジェンダにがん対策を組み入れることを目指して活動している。

UICCは、会議を開催し、能力を高め、がんコミュニティが連携する構想を提唱するリーダーとしての役割に専念することによって、世界のがん負担を軽減し、公平性拡大を促し、世界の医療の開発アジェンダにがん対策を組み入れることを目指して活動しています。

UICCは、1933年に設立され、スイスのジュネーブを本拠とする、最も長い歴史と最大の規模を誇る国際がん対策機構です。162か国に1000を超えるメンバーと、56のパートナーを擁し、世界の主ながん学会、保健担当の官庁、治療研究機関、患者グループ、業界リーダーが関与しています。

UICCは長年にわたり、がん対策に関して独立した客観的な見解を表明する機関としての名声を得てきました。また、世界保健機関(WHO)や世界経済フォーラム(WEF)など、影響力の大きな組織においても、がん対策が優先事項として取り扱われるように各国政府が対策を講じるよう促しています。

UICCは、国連経済社会理事会(ECOSOC)におけるステータスを活用し、国際がん研究機関(IARC)、国連薬物犯罪事務所

(UNODC)、国際原子力機関(IAEA)など、主要な国連機関とも密接に連携しています。

UICCは、現在約2000の組織と170か国で構成されるグローバルな市民社会ネットワークであるNCDアライアンスの創設メンバーです。

## 連携することによって、がん対策に成功し得ます

包括的な連携の確立は、UICCが活動し影響力を発揮するための基盤です。だからこそ、がんとの闘いに大きな変化をもたらす、これを進歩させるために、さまざまな利害関係者と連携しています。

連携の相手方には、がん関連の組織、基金、民間企業が含まれ、これらの組織との間で共通の目標に基づく長期的な関係を築いています。私たちは手を携えて年間何百万もの命を救うことを目指し、会議の開催、能力強化、支援という3つの優先分野を重視しています。



## 優先する活動分野

**世界のリーダーを、革新的で広範ながん対策の推進者にする。**  
私たちの最も重要な資産である会議と連携の能力を強化する。

- 世界のがんコミュニティの重要な会議の機会を活用し(世界対がんサミット、世界がん会議、世界がんリーダーサミット)、これら各イベントの影響を高める。
- 認知を拡大し、広がりを持たせ、参加を促し、革新的な方法を開発し、開催したイベントですべての関係者が対話に参加できるようにする。
- 新たなメンバーやパートナーを私たちのファミリーに積極的に迎え入れ、彼らの考え方や視点がグローバルな舞台に届くようにする。
- 主要意思決定者を集めて、がん対策に関する最も緊急度の高いテーマに対処させ、地域のリーダーを結束させてネットワークを構築し課題に対処させる。
- 地域でワークショップを開催し、地域固有の問題に対処させる。

**これまで成功した支援活動を強化し、今後の改革を推進する**

- WHO NCD行動計画や持続可能な開発目標など、がんと非伝染性疾患に関するグローバルな取り組みを実施するよう各国に働きかけ、2018年度の国連NCD予防対策見直しまでに、各国で進歩が見られるよう促す。
- UICCメンバーの見解が2018年度の国連の見直しおよび世界保健総会に反映されるようにする。
- がん対策および他のNCDに支出される国家の保健予算が拡大するようし、がん負担に対処する最も困難な国に政府開発援助を最も大きな割合で割り当てるようにする。

**出版物**  
● TNM/UICCは1953年に、Dr. Pierre Denoixが学術的な標準に際するTNM分類を採用した。現在、TNMはがんの病期に関する世界標準となっていて、Dr. Leslie SobinとProf. Mary Gospodarowiczが主導するTNM分類プロジェクトを通じて、UICCは定期的な見直し、更新している。  
● UICCはまた、がんの発見、診断、治療に関する臨床で利用しやすい参照ツール、臨床腫瘍学マニュアル(Manual of Clinical Oncology)を発行している。  
● International Journal of Cancerは、UICCの公式刊行物で、実験的臨床がん研究における一流の出版物である。世界中の医学研究の発表の場として有名であり、腫瘍学関連の文献では他に類を見ない。



## すべての人に治療を — 国の取り組みを活性化

### 連携して取り組むよう、グローバルな規模で要請

2018年には、新たにがんと診断された患者の数が1810万人に達しました。この水準が続けば、2040年には2940万人にまで増える予想されます。この驚くべき数値が示唆するのは、がんは健康と発展に対するグローバルな脅威として、これに対処するための行動が明らかに緊急に要請されている今の状況です。がんが国民の健康と医療制度に及ぼす影響については、どの国も対策を講じてはいますが、がんの発症率・死亡率が最も急激に上昇しつつある低中所得国(LMIC)にとって、これは最も大きな負担となっています。私たちは、この傾向を覆すための行動に、今すぐ乗り出さねばなりません。

総論的ながん予防・管理を改善するための国家による取り組みについての指針を各国政府に提出する2017年度のがん決議が採択されています。

- 公衆衛生に活用するがん関連データの質を向上させる
- 早期発見と正確ながん診断にアクセスできる人口を拡大する
- 早期疾患・転移性疾患に対する質の高い治療をすべての人に、適時に提供する
- 少なくとも基本的な支持療法・緩和ケアを、すべての人が得られるようにする

## 正面左側



# UICC 日本委員会 Union for International Cancer Control



ワールドキャンサーデーは、2000年2月4日、P.U.で開催された「がんサミット」から始まった取り組みです。UICC日本委員会は、日本においてUICCに所属する29の組織や機関をとりまとめ、UICC本部と連携しながら、各種の対がん活動を行ってまいりましたが、その一環としてこのワールドキャンサーデーの推進には力をいれてきました。

2019年から3年間のキャンペーンとして、「I AM AND I WILL」(私は今、そしてこれから私は)が始まっています。日本からもこのメッセージキャンペーンに参加し、世界と繋がりをとり、それぞれ立場から声をあげて、対がん活動をさらに発展させていくことを願い、今年も2月4日にワールドキャンサーデー2020 The Light up the World を日本委員会加盟組織のご協力で開催しました。



本日も、厚生労働省にもご協力をいただき、国際課やがん疾病対策課とも連携して、加藤厚生労働大臣にもご協力いただきました。

## World Cancer Day at WHO Executive Board Meeting



本年度は2月4日がWHOの執行理事会の会期中とも重なったため、WHO執行理事会の中谷比呂樹議長が、会場の冒頭にワールドキャンサーデーについて触れられ、がんに対して世界が一致して団結することの重要性について述べられました。



UICCは20周年を記念して、International Public Opinion Survey on Cancer 2020 reportを出しています。がんに関わる意識調査で、2019年10月25日から11月25日までに合計15,427人の成人を対象に実施された国際オンライン調査ですが、リスクの認識、予防の実践など、社会経済的背景による格差など多くの課題が浮かび上がっています。

## UICC日本委員会 TNM委員会の活動

UICCにとってTNM病期分類の維持と改訂は重要な活動の一つであり、日本におけるTNM活動はUICC日本委員会の内部組織として位置付けられている「TNM委員会」を中心に行っている。

近年の重要なトピックとしては、悪性腫瘍の病期分類に用いられる指標の1つとなるTNM分類が第7版から第8版に移行され、UICCは予定通り第8版のUICC規約を刊行し、2017年1月から運用を開始した。一方、AJCCもほぼ同内容のTNM第8版を刊行しているが、米国内の事情から第8版の運用開始を2018年1月に延期する措置が取られた。TNM委員会はTNM第8版の翻訳作業を行い、2017年12月15日に金原出版Kから出版された(右図)。

日本語版は英語版同様の体裁で、内容も英語版と対比できるようにページをそろえてある。

なお、英語版出版後、正誤表がUICCのウェブサイトにて公開されたため、日本語版はそれを反映させたものとなっている。是非、皆様にも広く利用されることを期待する。

UICC 日本委員会 TNM 委員 淺村隆生 (慶徳義塾大病院) 佐野 武 (がん研有明病院)



## 正面右側

# ワールドキャンサーデー 2021

2021年2月4日(木) 18:00~20:30 オンライン開催  
—私はいま そしてこれからわたしは—

UICC日本委員会では、2021年2月4日(木)のワールドキャンサーデーにオンラインで日本と世界をつなぐライブアップイベント[LINK THE LIGHTS]と、ワーキンググループセッションをUICC本部とUICC日本委員会加盟組織共同で開催いたします。日本全国各地で同時にUICC カラーである「ブルー」と「オレンジ」のライトアップを行い、その様子をオンラインで共有・配信し、思いを一つにして、日本ががん立ち向かう決意を日本と世界に発信して参ります。

開催場所：オンライン上(YouTubeLiveにて配信予定)  
プログラム：18時00分~18時30分 ライトアップ点灯式(全国各地で同時に点灯) 18時30分~20時30分 ワーキンググループセッション

### ライトアップイベントについて

- ・18:00~18:30開催。
- ・各地で行われるライトアップの様子を、YouTube Liveを通じてご覧いただけます。

### ワーキンググループセッションについて

- ・18:30~20:30開催。60分×2部構成となります。
  - ・ライトアップ点灯式後、テーマ毎に分かれてセッションを行います。
  - ・YouTube Liveを使用しオンライン上で参加が可能です。入退場は自由となっております。
- 下記のようなテーマ案からいくつか開催する予定です。
- 第1部  
働くがんとならぶ、防く<タバコ>、学ぶ<がん教育>、食べく<がん栄養>、儲える<がんとお金>、暮る<がん相談>
- 第2部  
笑う<笑いがん>、泣く<グリーフケア>、絆う<がんメイク>、暮らす<地域でがんを生きる>、動く<患者会活動>、産む<AYA世代がんと妊産性>

## 誰も取り残されない医療 Cancer & Universal Health Coverage

2019年10月15日から17日まで、カザフスタンのアстанаでUICCのがんリーダーズサミットが開催されました。「Cancer and Universal Health Coverage」をトピックとしてWHO、IARC、OECD、各国からのUICCメンバー、ESMO、ASCOなどの学会関係者、製薬団体Pfizerや民間企業など、80か国350人が集まり討議が3日間交わされました。

近年UICCはこのUHC政策にグローバルヘルスの世界でコミットするための活動を続けてきています。UICC日本委員会もそれに呼応してUICC-ARO活動を軸として活動しており、2020年は日本癌学会、日本癌治療学会において、Covid19時代における誰も取り残されないがん医療(UHC)についてUICCセッションを開催しています。

UICC日本委員会は今後UICC-ARO活動を軸として、アジアがん医療をUHCという軸で集約された情報を発信し、医療資源の調整を構造化し、政策形成プロセスに研究成果をエビデンスとして位置付けるUHCの政策概念をUICCとして創出することを目指しています。



## 右

# UICC 日本委員会

### UICC 日本委員会とは

UICC日本委員会 Japan National Committee for UICC(UICC-Japan)は、UICCに加盟している日本の組織が集結し、世界対がん宣言の実現に努力するUICCの支援を目的の一つとして、連携しながら活動している日本の独立組織で、事務局を(公財)がん研究会に置いている。日本の主要ながん専門学会、がんセンター、研究所、研究基金、病院、対がん協会などが参加している。

### UICC 日本委員会の活動内容

UICC本部と連携しながら 毎年2月4日のWorld Cancer Dayに各地でシンポジウムを、また日本癌学会や日本癌治療学会においてUICCセッションなどを実施・開催している。

山際一吉田国際がん研究フェロロシッの運用基金を会員組織と賛助会員の寄付で用意し、UICCに委託して運営している。この事業は1975年以来40年に亘り続けており、既に500人を超える世界の研究者が恩恵を受けており、日本の民間からの継続的貢献として評価されている。UICC-Asia Regional Office(ARO)に活動資金を提供し、その活動を支援している。

各種の委員会を設置し、世界対がん宣言に沿った事業を企画し活動している。



1966年 東京で開催されたUICC世界がん会議(第9回)

### UICC 日本委員会加盟組織

- |                     |                                 |                        |              |                                    |             |
|---------------------|---------------------------------|------------------------|--------------|------------------------------------|-------------|
| 愛知県がんセンター           | 神奈川県立がんセンター(公財)がん研究振興財団         | 国立がん研究センター(公財)札幌がんセミナー | 千葉県がんセンター    | 新潟県立がんセンター(公財)日本対がん協会(公社)日本婦人科腫瘍学会 | 三重大学医学部附属病院 |
| (一社)アジアがんフォーラム      | がん・感染症センター都立駒込病院(公財)がん集学的治療研究財団 | 埼玉県立がんセンター             | 静岡県立静岡がんセンター | 東京慈恵会医科大学                          | 日本癌学会       |
| 大阪国際がんセンター(公財)がん研究会 | 九州がんセンター(公財)佐々木研究所              | (公財)高松宮妃癌研究基金          | 栃木県立がんセンター   | (一社)日本癌治療学会                        | (特非)日本肺癌学会  |
| 宮城県がんセンター           | 東日本乳癌学会                         | 東札幌病院                  | 宮城県がんセンター    | (公財)北海道対がん協会                       |             |

【賛助会員】 協和キリン株式会社(山崎-吉田国際奨学金)  
(公社)日本放射線腫瘍学会

## UICC 日本委員会 2020年度役員

- |                   |                        |                                       |                             |
|-------------------|------------------------|---------------------------------------|-----------------------------|
| <b>【委員長】</b>      | 野田 哲生 (がん研究会)          | <b>【UICC-AsiaRegionalOffice(ARO)】</b> | 野田 哲生 (がん研究会)               |
| <b>【幹事】</b>       |                        | <b>【UICC本部】</b>                       |                             |
| 総務                | 中釜 斉 (国立がん研究センター)      | Fellowship 委員                         | 中釜 斉 (国立がん研究センター)           |
| 学術                | 垣添 忠生 (日本対がん協会)        | TNM 委員                                | 高生 (慶応大学医学部)                |
| 財務                | 吉田 和弘 (慶応大学大学院医学系研究科)  | <b>【名誉会員】</b>                         | 井口 潔 (元がん集学的治療研究財団)         |
| ARO担当             | 野田 哲生 (がん研究会)          | 青木 國男 (元愛知県がんセンター)                    | 富永 祐民 (元愛知県がんセンター)          |
| 予防・疫学領域担当         | 浜島 信之 (名古屋大学大学院医学系研究科) | 大島 明 (大阪府立成人病センター)                    | 北川 知行 (がん研究会)               |
| 事務局担当             | 大野 真司 (がん研究会有明病院)      | 武藤徹一郎 (がん研究会)                         | 田島 和雄 (元愛知県がんセンター、三重大学)     |
| <b>【監事】</b>       | 増井 徹 (国立精神・神経医療研究センター) | 池田 徳彦 (東京医科大学)                        |                             |
| <b>【専門委員会委員長】</b> |                        |                                       |                             |
| 疫学予防委員会           | 浜島 信之 (名古屋大学大学院医学系研究科) | <b>【日本委員会事務局(がん研究会内)】</b>             | 神田 浩明 (研究・幹事会担当)(埼玉立がんセンター) |
| 喫煙対策委員会           | 望月友美子 (前 日本対がん協会)      | 関本 敏之 (事務委員長兼事務)                      |                             |
| 患者支援委員会           | 北川 雄光 (慶応大学医学部)        |                                       |                             |
| TNM委員会            | 佐野 武 (がん研有明病院)         |                                       |                             |
| 広報委員会             | 河原 ノリ工 (東京大学大学院情報学環)   |                                       |                             |
| 小児がん委員会           | 中川原 章 (佐賀国際産科産科がん治療財団) |                                       |                             |
| 対がん協会             | 石田 一郎 (日本対がん協会)        |                                       |                             |